

平成29年6月8日開会

平成29年第2回東松島市議会定例会

# 議員一般質問通告書

東松島市議会

## 《 議員一般質問 目次 》

平成29年第2回定例会

順位	氏名	件名	頁
第1位	熊谷 昌崇	1 復興住宅について	3
		2 市税の納付方法について	4
		3 某国のミサイル攻撃があった場合の避難方法は	5
第2位	古川 泰広	1 浜市漁港の堆砂 <sup>たいさ</sup> 問題について	6
		2 通学路の指定とその安全対策について	7
第3位	大橋 博之	1 小規模多機能自治について	8
第4位	熱海 重徳	1 子育て支援について	9
第5位	齋藤 徹	1 老朽化した各地区センターを整備せよ	10
第6位	小野 恵章	1 JR矢本駅および周辺施設等の今後について	11
第7位	阿部 とし彥	1 保育所の入所について	12
		2 市職員の各自治会の行事への参加について問う	13
第8位	土井 光正	1 「心の復興」の取り組みを今後も継続し、さらに充実させよ	14
		2 障害者福祉タクシー利用助成についてガソリン券助成と併用し選択肢を与えよ	15
		3 集団移転団地における安全・安心な環境の整備対策を急げ	16
第9位	石森 晃寿	1 鳴瀬未来中学校新校舎の供用開始に伴う通学の方法について	17

第10位	手代木 せつ子	1	高齢者ドライバーについて問う	18
		2	高齢者の介護支援ボランティアポイント制度について問う	19
第11位	長谷川 博	1	女川原発再稼働・避難計画について	20
		2	国保の県単位化について	21
第12位	櫻井 政文	1	観光振興について	22
		2	企業誘致について	23
第13位	小野 幸男	1	前市長の継承事業について問う	24
		2	産業振興について問う	25

【質問者数13人・質問件数23件】

氏 名	件 名	要 旨
<p>第1位</p> <p>熊 谷 昌 崇</p>	<p>1. 復興住宅について</p>	<p>東松島市の復興住宅については、柳の目地区を除き、あおい地区や二反走地区等、だいが完成してきている。しかし、まだ完成後数年しか経過していないにもかかわらず、色々な不都合が起きていると思う。そこで以下の点について何う。</p> <p>(1) コンクリートの基礎にひびが見受けられたりするが、一度、総点検をすべきではないか。</p> <p>(2) あおい地区や小野駅前地区等の線路沿いにはフェンスが無く、子どもたちが簡単に線路に侵入できてしまうが、対策を講ずるべきではないか。</p> <p>(3) 復興住宅のドアにはドアスコープが付いてなく、インターホンもカメラが無いため、不便との声をよく聞く、ドアスコープは後付けも可能だと思うが、対応をすべきではないか。</p> <p style="text-align: right;">【答弁を求める者 市長】</p>

氏 名	件 名	要 旨
<p>第1位</p> <p>熊谷昌崇</p>	<p>2. 市税の納付方法について</p>	<p>数年前に、市に対し、市税の納付方法をクレジットカード決済やコンビニ決済を導入すべきではないかと質問し、その時は内部で検討はしているとの答えだったが、一向に進展が見受けられない。先日、市民から軽自動車税の納付書が届いたが、周辺市町村ではコンビニで納められるのに、東松島は不便だとの指摘を受けた。確かにコンビニ決済であれば24時間納付でき、非常に便利である。そろそろ、重い腰を上げて行動に移すべきではないだろうか。</p> <p style="text-align: right;">【答弁を求める者 市長】</p>

氏 名	件 名	要 旨
<p>第1位</p> <p>熊 谷 昌 崇</p>	<p>3 . 某国のミサイル攻撃があった場合の避難方法は</p>	<p>先日、大崎市において、「ミサイル発射、当地域に着弾の可能性」との誤報が流され、市は6分後に誤報と訂正したが、600件の問い合わせがあったという。国際情勢いかんによっては、現実には起こりうる可能性があると思う。そのような場合の対応やマニュアルは整備が必要と考えるが対応に着手しているのか。また、今後の方策について伺う。</p> <p style="text-align: right;">【答弁を求める者 市長】</p>

氏名	件名	要旨
<p>第2位</p> <p>古川泰広</p>	<p>1. 浜市漁港の堆砂問題について</p>	<p>東日本大震災発生から6年が過ぎた今日でも浜市漁港は、堆砂により漁港としての使用不能状態が続いており、関係者はいらだちを感じている。市長はこれまで県議会議員として、その解決のために積極的に当たってこられたことは高く評価するものであるが、過日の県議会における一般質問に対する知事答弁が、現場を十分理解していない認識不足な答弁内容で、傍聴した関係者からは大きな落胆と不満の声が上がったと聞いている。</p> <p>市長はマニフェストの中で「漁業の振興・再生」を掲げているが漁業関係の課題の一つとして、浜市漁港の問題解決のためにどのように取り組む所存なのか以下伺う。</p> <p>(1) 抜本的な解決策へのプロセスについて。</p> <p>(2) ヘッドランド設置による堆砂により河口部への堆砂の誘導について。</p> <p>(3) 浚渫船常設による浚渫について。</p> <p>(4) 鳴瀬川右岸旧白鬚神社前の漁港の活用について。</p> <p style="text-align: right;">【答弁を求める者 市長】</p>

氏 名	件 名	要 旨
古 川 泰 広	2．通学路の指定とその安全対策について	<p>(1) 通学路の指定は、保護者からの届出を校長が承認するという流れになっているが、多様な通学路が想定されることから、PTA安全部や東松島市通学路安全推進協議会などによる現地調査の上、承認すべきと思料されるが伺う。</p> <p>(2) 東松島市通学路安全推進協議会の活動の現状と成果について伺う。(会議の開催状況、通学路の合同点検、安全対策につながった改善事例等)</p> <p>(3) 歩道にたい積した土砂等により有効に幅員が確保されていない歩道が見受けられるが、各道路管理者(国・県・市)に維持管理の徹底を図るべきと思料されるが伺う。</p> <p>(4) 一般の通行だけでなく通学路としても使用していた小野橋歩道橋の補修工事が長期にわたり通行止めになっているが、早急に解除するよう要望すべきと思料されるが伺う。</p> <p>(5) 災害用スクールバスは国費による運行は段階的な縮小か廃止が見込まれると言われているが、継続運行の強い要望があり検討すべきと思料されるが伺う。</p> <p>(6) 鳴瀬桜華小学校の生徒60%が牛網・浜市地区からの生徒であり、移転地には避難道路を兼ねた通学路を牛網地区側にも設置すべきと思料されるが伺う。</p> <p style="text-align: right;"><b>【答弁を求める者 市長、教育長】</b></p>



氏名	件名	要旨
<p>第3位</p> <p>大橋博之</p>	<p>1. 小規模多機能自治について</p>	<p>東松島市が誕生して以来、阿部秀保前市長が強力に推進してきた協働のまちづくりの集大成として、本年4月よりスタートした自治会制度が順調に機能していくためにも今後、小規模多機能自治 - 総働の考え方を学ぶべきと考える。</p> <p>「自治会、町内会、区などの基礎的コミュニティの範囲より広範囲のおおむね小学校区などの範囲において、その区域内に住み、または活動する個人・地縁型・属性型・目的型などのあらゆる団体等により構成された地域共同体が地域実情および地域課題に応じて住民の福祉を増進するための取り組みを行うこと」と定義されている。協働のまちづくりを推進する東松島市としては有効な手段になるはずだ。以下の点について伺う。</p> <p>(1) 小規模多機能自治ネットワークについて。</p> <p>(2) 8つの市民センターとの整合性について。</p> <p>(3) 自治会制度が充実するための市職員のかかわり方。</p> <p>(4) 自治会での自主財源の確保について。</p> <p>(5) 渥美新市長の前市長からの協働のまちづくりの継続性について。</p> <p style="text-align: right;">【答弁を求める者 市長】</p>

氏名	件名	要旨
<p>第4位</p> <p>熱海重徳</p>	<p>1. 子育て支援について</p>	<p>少子高齢化が進む本市において、人口減少対策として子育ての充実についても課題の一つと思料されるが、以下の点について伺う。</p> <p>(1) 矢本海浜緑地の規模縮小による代替は。また、既存公園の改繕策について。</p> <p>(2) あおい地区北に建設予定の子育て支援センターの規模および運営について。</p> <p>(3) 新しく建設予定の放課後児童保育の運営について。職員の増員、待遇改善などは。</p> <p>(4) 産婦人科や小児科などの医療機関の誘致活動、また、それに伴う土地利用計画の見直しは。</p> <p style="text-align: right;">【答弁を求める者 市長】</p>

氏 名	件 名	要 旨
<p>第5位</p> <p>齋藤徹</p>	<p>1. 老朽化した各地区センターを整備せよ</p>	<p>東松島市内の地区センターにおいて、築30年以上経過したものが存在する。</p> <p>自治会で維持、管理に苦心している状況だが、経年劣化により、修繕等が追いつかず、雨漏りや床の底が抜けかかっている地区センターもある。</p> <p>地区センターはその地区の顔であり、自治会活動および子ども会育成会活動等で使用される拠点でもあることは周知の事実である。</p> <p>また、有事の際の避難場所（集合場所）となっているが、倒壊の危険性があり、建物内へ入れないという本末転倒なものもあるのは事実だ。</p> <p>「センターより、自宅のほうが安全だ。」と堂々と言われる施設を自治会に提供するのではなく、安心、安全に使用できる施設を提供することこそ、まさに行政の役割ではないかと個人的に感じる。</p> <p>以上のことを踏まえた上で、以下の点を問う。</p> <p>(1) 地区センターの老朽化に対する市長見解を問う。</p> <p>(2) 人口減の自治会の将来的な統合、地区センターの統合の可能性と地域コミュニティーの維持等の今後の展望について問う。</p> <p style="text-align: right;">【答弁を求める者 市長】</p>

氏名	件名	要旨
<p>第6位</p> <p>小野恵章</p>	<p>1. JR矢本駅および周辺施設等の今後について</p>	<p>東日本大震災後の復旧、復興事業が進み、本市の浸水区域における様相は大きく変化した。</p> <p>特に、JR野蒜駅、東名駅は移設新設され、それぞれの駅を中心とした今後の発展に期待するものである。</p> <p>東松島市におけるJR矢本駅および周辺地域は、本市の中心地としての位置付けは変わらぬものとする。本市の発展、定住人口増への取り組みや中心地の顔づくり、商店街の活性化、住み良いまちづくりのためにも、矢本駅および周辺施設の将来像を見据えた計画策定が必要と考えるが、市長の所見を伺う。</p> <p>(1) JR矢本駅の改修およびゆづるとの一体的整備における駅北側連絡通路について。</p> <p>(2) 老朽化した北浦アパートは、用途廃止すべきで、その跡地利用計画について。</p> <p>(3) 上町学習等供用施設(矢本西地区センター)のエレベーター設置について。同施設地内の旧矢本歯科の取り壊し後の東松島市商工会との調整について。</p> <p>(4) 北区官舎1、2号棟跡地(財務省所有)を市で借用すべきと考えるが、いかがか。</p> <p>(5) 航空祭および東松島市夏まつりに関する関連環境(道路、駐車場、イベント会場)の在り方について。</p> <p style="text-align: right;">【答弁を求める者 市長】</p>

氏名	件名	要旨
<p>第7位</p> <p>阿部とし系</p>	<p>1. 保育所の入所について</p>	<p>近年共働きが増えている中、子どもを産み育てるということが大変となっている。安心して働くためにも保育所への入所は必要不可欠である。</p> <p>こうした中、各保育所の定員数等はあると思うが、希望した保育所に入所できない。2人子どもがいて一人一人別々の保育所だったりさまざまな不満を耳にした。</p> <p>赤井の方に平成30年、4月開所予定の私立認可保育所ができるということで、ある程度の問題は解決できるかなとも思っていた。ところが先日の議員全員説明会で新しい保育所が開所されないという説明があったことも踏まえて伺う。</p> <p>(1) 各保育所の定員に対しての入所状況と待機児童について。</p> <p>(2) 第1希望に入所できなかったケースや兄弟姉妹で別々の保育所への入所はどれぐらいか。</p> <p>(3) こういった不満等は、保育士不足によるものか。また、別の理由があるのか。どのようにとらえているか。</p> <p>(4) 30年4月の開所は、ダメになったが今後の新しい私立認可保育所の開所について。</p> <p>(5) 今後、市はどのようにして子育てしやすい環境づくりにつとめるのか。</p> <p style="text-align: right;">【答弁を求める者 市長】</p>

氏名	件名	要旨
阿部とし系	2. 市職員の各自治会の行事への参加について問う	<p>本市においては市民センターごとに自治会制度がスタートした。地域を回って歩く中で本市の職員に各行事へもっと参加して色々と力を貸してほしいという声を耳にした。中には一生懸命に参加して力を貸す職員もいるが、全然参加してくれない職員が多いという。</p> <p>自治会制度がスタートした今、一日も早くこの制度が機能するためにも以下について伺う。</p> <p>(1) 震災の復旧復興で忙しい中であって、一市民としての職員の行事への参加についてどのように捉えているか。</p> <p>(2) かつて前市長が行事への参加について自己評価するようなシステムがあったように記憶するが、それはどうなっているのか。</p> <p>(3) 今後、どのようにして職員に行事への参加や協力を促してゆくのか。</p> <p style="text-align: right;">【答弁を求める者 市長】</p>

氏 名	件 名	要 旨
<p>第8位</p> <p>土 井 光 正</p>	<p>1.「心の復興」の取り組みを今後も継続し、さらに充実させよ</p>	<p>東日本大震災から6年経っているが、復興はまだ道半ばである。災害復興住宅、道路、下水道などのハード面での「復興の加速化」はもちろんのことだが、「心の復興」が本当の意味での復興との考えで、被災者一人一人へ寄り添い続ける見守り支援や、相談体制の充実といったソフト事業の取り組みを今後も継続し、充実させていくべきだと考えるが次の3点について市長の考え方を問う。</p> <p>(1) 渥美市政としての「心の復興」の取り組みについて。</p> <p>(2) これまでの取り組みの課題と対応について。</p> <p>(3) ソフト事業予算の確保について。</p> <p style="text-align: right;">【答弁を求める者 市長】</p>

氏 名	件 名	要 旨
土 井 光 正	2 . 障害者福祉 タクシー利用助 成について、ガ ソリン券助成と 併用し選択肢を 与えよ	<p>現在、当市において福祉タクシー利用料金の助成を行っているが、利用実態が約6割で、残りの4割の方は、自家用車等を利用していることとなる。</p> <p>このことについて、他の町から転居して来た方によれば、「今まで住んでいたところではタクシー券とガソリン券のどちらかの選択肢があった。隣の石巻市でも選択肢があるのになぜ東松島市だけがないのか疑問であると」話された。また、障害者にはいろいろな方がおり、介護者の利便も考えると自家用車での送迎のほうが介護しやすい、障害者の中でも運転する方がいるのではないかと話していた。</p> <p>平成21年度までは当市においてもタクシー券とガソリン券を併用されていたようであるが、ガソリン券助成の復活について市長の考えを伺いたい。</p> <p style="text-align: right;">【答弁を求める者 市長】</p>



氏 名	件 名	要 旨
土 井 光 正	3 . 集団移転団地における安全・安心な環境の整備対策を急げ	<p>当市における災害公営住宅の住宅整備については、野蒜北部丘陵地区は8月に完了予定で、柳の目西地区の100戸の整備を残すところとなるが、さらに工事の加速化を図り、仮設住居の被災者が1日も早い生活再建ができるよう関係当局にさらなる努力を望む。</p> <p>さて、仮設住宅等からやっとの思いで集団移転団地に移られ、新たなスタートを始めた方々からいろいろとお話を伺った。その中で、特に多かったのが、あおい団地中央を走る幹線道路に信号機が1つも無く、特に夜間は暴走車が多く、交差点では車同士の事故がたびたび発生していて怖い。また、団地内の案内板が住宅番号表示となっており、住所番地と異なるため外来者が団地内をうろうろして不審者と間違えることもある。さらに、秋から北西の風が非常に強く、玄関ドアが開けられない。無理して開けようとして転倒しそうになった等の内容であった。集団移転団地内の安全・安心な暮らしのため、これらを踏まえて次の3点についての対応を伺う。</p> <p>(1) これまでも議会の中で議論されているが、団地内幹線道路の中で特に宮野森小学校正面前の信号機の設置予定、あおい団地の幹線道路内の速度規制等の予定はいつなのか。また、他の集団移転団地の幹線道路の速度規制の予定はどうか。</p> <p>(2) あおい団地の案内板の見直しについてはどうか。また、丁目区分の標識等の設置を提案したいがどうか。</p> <p>(3) 季節的な風ではあるが、風対策をどのように検討されているのか。</p> <p style="text-align: right;">【答弁を求める者 市長】</p>

氏名	件名	要旨
<p>第9位</p> <p>石森晃寿</p>	<p>1. 鳴瀬未来中学校新校舎の供用開始に伴う通学の方法について</p>	<p>保護者待望の鳴瀬未来中学校新校舎の供用開始が平成30年1月と聞いている。供用開始に至るまで、市長、教育長および関係者の努力に敬意を表し感謝する。</p> <p>通学路の環境整備については、防犯灯の設置、市道の整備等、生徒が通学する上で安心安全度は、増大したと思う。しかしながら、通学の途中には、鳴瀬川、吉田川の一級河川等があり、旧鳴瀬第一中学校学区の生徒は、危険が多々あることは、教育長も承知のことと思う。その危険を一つずつ取り除くには、多大な予算と時間が必要になり、鳴瀬未来中学校新校舎の供用開始には、間に合わないことが思料される。そこで、何よりも大事な生徒の命を守り、安心安全な通学方法のためにスクールバスを市で運行してはどうか。費用負担は、保護者との話し合いも必要かと思う。市としてスクールバスを運行する考えはあるか。</p> <p style="text-align: right;">【答弁を求める者 教育長】</p>

氏名	件名	要旨
<p>第10位</p> <p>手代木せつ子</p>	<p>1. 高齢者ドライバーについて問う</p>	<p>(1) 高齢者ドライバーの人数の把握と、健康づくり、生きがいづくりに対する取り組みについて</p> <p>団塊の世代の方々が75歳を迎える2025年には、おおよそ3人に1人が高齢化という当市において、身体機能が衰えても車の運転は、通院、買い物、農作業と生活の一部になっていることを考えると、この方々が安全を確保しながら、できるだけ運転を続けられるような健康づくりが必要と思うが、これらに対する取り組みはどうか。</p> <p>(2) 免許証の自主返納対策について</p> <p>運転に不安があるなどの高齢者が自主的に免許証を返納することは安全な暮らしを守るために進めていかなければならないが、本市では高齢者が免許証を返納しやすくするためにどのような取り組みを進めているのか伺う。</p> <p style="text-align: right;">【答弁を求める者 市長】</p>

氏名	件名	要旨
手代木せつ子	2. 高齢者の介護支援ボランティアポイント制度について問う	<p>現在、独居高齢者や老老介護、認知症高齢者の増加など、介護現場での課題は山積している。今後、団塊世代の高齢化で要介護者の急増が見込まれる中、当市でも元気な高齢者がボランティア活動を行うことにより、本人の健康増進や介護予防につなげること、さらに社会参加、地域貢献にも通じた生きがいづくりが促進できるよう、国の介護保険法の「地域支援事業」の制度を利用し、介護支援ボランティアポイント制度を導入すべきと思うが、市長の所見を伺う。</p> <p style="text-align: right;">【答弁を求める者 市長】</p>

氏名	件名	要旨
<p>第11位</p> <p>長谷川博</p>	<p>1. 女川原発再稼働・避難計画について</p>	<p>今回の市長選に際して、市民団体から市長候補三氏に対して公開質問状で6項目について問い掛けが行われ、それぞれの回答が示された。そのうち、女川原発再稼働についての項目で渥美市長は「原子力災害は原子力発電所が停止している状況であっても、核燃料が保管されている限り発生しうるものであり、避難計画や防災訓練を実施するなど防災対策の推進が必要である」「原発の再稼働は国のエネルギー政策における中長期的な観点から、国において総合的に判断されるべきものと考えており、女川原発については、現在原子力規制委員会において適合審査が行われており、国の動向を注視していきたい」「平成24年10月、東松島市議会において、女川原発の再稼働を行わない意見書を決議しており、重く受け止めるべきと考える」などと回答されている。</p> <p>そこで何うが、平成27年9月に市が公表した「原子力災害時における広域避難計画」について、市民の安全避難の実効性を確保する観点から度々問題点を指摘してきたが、現時点における当該避難計画についての見解はいかに。もし仮に不十分とすれば、今後の具体的な見直しの取り組みはどのように。</p> <p>一方、平成27年3月、周辺自治体（UPZ）が締結した「女川原発安全協定」には事実上「拒否権」が無く、仮に再稼働に反対する場合に、「反対の意見」が反映される保証は無いと考えられる。意見表明を担保するために宮城県と「覚書」を交わして「事前了解に準ずる」との解釈がある一方で、（反対の）意見を聞き伝えるだけで「拒否」の効力は無いと解される。福島原発事故の教訓からすれば少なくとも、半径30キロ圏の自治体や住民の意向を確実に反映させることができる協定に見直しすべきと考えるがどうか。安全協定にそうした構えが無ければ議会意思はもとより、意見書を重く受け止めるとする市長の思いも反映されることは無いのでは。原発事故の被害を受ける実態からすれば、福島事故後、立地以外の自治体の同意は必要ないとの考え方はもはや成り立たず、住民の命と安全を守る立場から立地自治体と同様の「同意権」のある安全協定に見直しを図るべきが筋と考えるが、市長の考えを伺う。</p> <p>また、4月23日、「脱原発をめざす首長会議」が原発再稼働に半径30キロ圏内の自治体の同意を必要とする法整備を政府に求める決議を採択、近く内閣や経済産業省に決議書を提出するなど新聞報道された。こうした動きについての見解はどうか。</p> <p style="text-align: right;">【答弁を求める者 市長】</p>

氏名	件名	要旨
長谷川博	2. 国保の県単位化について	<p>平成30年度からの国保県単位化で市民の負担がどうなるのか気になるところだ。県単位化準備スケジュールによれば7月から標準保険料率の算定が始まり、12月に保険料率の決定、通知・公表としている。国保の趣旨から、誰もが必要な医療が受けられ、能力に応じた負担が前提で、住民が払える保険料にすることが基本と考えるがどうか。</p> <p>そのためには県の原案や仮算定値を早く公表し、自治体による分析や評価、議会での議論を経て住民の理解を得られるような進め方をすることが大切と考えるがどうか。</p> <p>また、県単位化に当たって標準的な保険料(税)算定方式として3方式(所得割、均等割、世帯割)とすることを決めたとし、平成32年度を目標として全市町村が3方式への統一を目指すとしている。どのような経過で3方式に統一されたのか伺う。一方で、本市は現在4方式をとっており、3方式によることの市民のメリット・デメリットはどのように捉えるか。また、国保の県単位化はそれとしても、本市でため込んでいる積立金(財政調整基金5億1,600万円)の一部を取り崩して国保税引き下げや低所得者対策に充当すべきと考えるが市長の見解を伺う。</p> <p style="text-align: right;">【答弁を求める者 市長】</p>

氏 名	件 名	要 旨
<p>第12位</p> <p>櫻井政文</p>	<p>1. 観光振興について</p>	<p>観光業は成長産業の一つであり、業種も多岐にわたり、地域の発展、活性化に大いに寄与する産業である。</p> <p>しかし、東日本大震災以降、当市の観光客数は最盛期の4分の1まで減少している。</p> <p>この状況を変えるには、東松島市の観光資源や自然、産業、歴史、文化など固有の価値に市民が気付き、誇りと自信をもって、この市に住めること、それが、地域ブランドを高めることになり、まちおこしの原動力になるだろう。人口減少が続く中では、インバウンド（訪日外国人旅客誘致）展開も今後、重要と考える。昨今の外国人観光客のリピーターは、大都市間（ゴールデンコース）から地方、特に農漁村での民泊をする傾向になっている。インバウンドのチャンスと捉える状況になってきている。</p> <p>今後、市の魅力を高める官民一体となった取り組みが肝要だろう。</p> <p>具体的に観光振興施策を推進する観点から以下の点を伺う。</p> <p>(1) インバウンド対応の計画について</p> <p>(2) 縄文村歴史資料館内に市の歴史常設館を併設してはどうか。(新しい観光名所になりうる)</p> <p>東松島市の古代から上代、近代、現代に至るまでの歴史資料を一堂に会する。(矢本横穴古墳群、赤井遺跡、大槻俊斎、奈良坂源一郎など)</p> <p>(3) 東松島市ブランドを確立する施策について</p> <p>(4) 6次化産業を推進するための取り組みについて</p> <p style="text-align: right;">【答弁を求める者 市長】</p>

氏 名	件 名	要 旨
<p>第12位</p> <p>櫻井政文</p>	<p>2. 企業誘致について</p>	<p>少子高齢化、人口減少が進むわが国の現況は、どの地域も同様である。今後自治体は補助金を当て込む受け身の事業推進だけでなく、民間企業の発想も取り入れた自立したまちづくりが求められよう。</p> <p>さて、若い人材の定住や他地域からの当市への移住促進に当たっては、雇用する場の確保が喫緊の課題である。</p> <p>また、法人税収を増やすためにも企業誘致政策を強力に推進すべきである。誘致のための優遇制度、環境整備、情報の発信などを強化し、誘致を成功させ、空き用地を有効活用すべきである。</p> <p>そのために以下の点を伺う。</p> <p>(1) トップの熱意、人柄に魅かれて進出を決めた企業が多いが、トップセールスについていかがか。</p> <p>(2) 企業誘致担当職員の異動配置を検討してはどうか。</p> <p>(3) 企業立地推進事業の見直しについて(推進員の必要経費を市側が負担など)</p> <p>(4) 在京東松島幹事は現在、過去に大企業勤務者も多く、企業情報を持っている。彼らの活用と会との連携について。</p> <p style="text-align: right;">【答弁を求める者 市長】</p>



氏 名	件 名	要 旨
<p>第13位</p> <p>小 野 幸 男</p>	<p>1．前市長の継承事業について伺う</p>	<p>このたび、12年ぶりの市長選挙において新しい市長を迎え、阿部市政を継承しながら復興モデル都市を目指し、渥美新市長が4万人の市民の幸せのために我慢と忍耐と妥協を下にスタートすることから、今後の運営や取り組みについて伺う。</p> <p>(1)新自治会制度が4月から始まったが、地域のことは地域で住民が主体性を持って取り組む町づくりであるが、地域の問題、課題を共有する必要もあるので各センターへの職員の配置を伺う。</p> <p>(2)地域公共交通のデマンドタクシー等の運行に当たり、利用者からもう少し利用者の利便性を考慮した運行の要望が多くあったので改善策を伺う。</p> <p>(3)鳴瀬未来中学校の完成も間近であるが、上下堤、浅井、中下、大塚区に関連した、新たな通学路と生活道も含めた道路の新設を地区の方々より強く要望されましたが、山あいの大動脈として国道45号と県道奥松島松島公園線(通称:松島パークライン)を直結する地域振興も兼ねた新設を伺う。</p> <p style="text-align: right;">【答弁を求める者 市長】</p>

氏名	件名	要旨
小野幸男	2. 産業振興について伺う	<p>真の復興を推進する上で、経済活性化の最重要課題としての認識は市長も私も同じと思うことから以下3点について伺う。</p> <p>(1) 農業、漁業の担い手確保と低迷するカキの消費拡大に向けた取り組みやアサリ漁場の復活について伺う。</p> <p>(2) 今後の観光振興策と奥松島公社の32年度に向けた独立採算性を重視した改革について伺う。</p> <p>(3) 副市長2人制と企業誘致の改革について伺う。</p> <p style="text-align: right;">【答弁を求める者 市長】</p>

